

日本教育社会学会 第66回大会  
研究発表Ⅱ-10 児童・生徒の生活

# 児童生徒の生活時間の变化に関する研究 2008年調査と2013年調査の比較を中心に

明石要一（千葉敬愛短期大学）  
佐藤 香（東京大学）  
○西島 央（首都大学東京）  
○木村治生（ベネッセ教育総合研究所）

この資料は、前半（木村報告部分）のみです。

2014.9.13 Sat.

## 1. 課題認識

## 2. 本研究の目的

## 3. 先行研究

## 4. 調査概要

## 5. 学年変化と経年比較に関する分析

今の子どもたちの時間の使い方とその経年変化を明らかにする

- ① 学年による生活の変化……生活全体、「学習」と「メディア」の時間
- ② 2008年→13年の変化……「学校」「学習」「メディア」の時間を中心に

木村から  
(20分)

## 6. 時間の使い方に関する属性分析

変化がどのような属性の子どもによって起こっているのかを明らかにする

- ① 母親学歴(生育環境に影響を及ぼす階層要因)
- ② 本人の希望進路(地位形成にかかわるハビトゥスの代替指標)
- ③ 居住自治体の人口規模(居住地域の社会的特徴)

西島から  
(20分)

## 7. まとめ

## ●子どもを取り巻く生活環境の変化

### 1. 学力向上をめざした教育施策/実践

→現行の学習指導要領の実施(小2011年、中2012年)、学習内容の増加

→授業時数の増加

(例:小5で年間1051コマ以上の比率2007年10%→13年25%、文科省教育課程実施状況調査)

→家庭学習時間の増加

(例:小5で平日「1時間以上」の比率2007年58%→14年62%、全国学力・学習状況調査)

### 2. 「早寝早起き朝ごはん」をはじめとする生活改善運動の普及

→「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」

(小5で「している」+「どちらかといえば、している」比率2007年72%→14年79%、全国学力・学習状況調査)

### 3. 携帯電話・スマートフォンなどの携帯情報端末の普及

→「携帯電話やスマートフォンを持っていない」

(「持っていない」と回答した比率、2014年小5で46%、中2で23%、全国学力・学習状況調査)

### 4. その他(中長期の変化)

→屋外で遊ぶ機会の減少、共働き世帯の増加、通塾率の増加 など

★これらの変化が、子どもの時間の使い方にもどのような影響を与えているのか

●2008年と13年に実施した調査を用いて、以下の点を明らかにする。

## ①子どもの「時間の使い方」はどのように変化したのか。

→時間の使い方の変化から、社会環境の変化のうちで子どもに与えた影響が大きかった要因を推定する。

[仮説例]

・以下の時間は長くなったのではないか。

→睡眠時間、学校にいる時間、家庭学習時間、携帯電話やスマホの時間

・以下の時間は短くなったのではないか。

→外遊びの時間、テレビの時間、本やマンガの時間

## ②変化したのは、主にどのような属性の子どもなのか。

→社会環境の変化は、主にどのような子どもに影響を与えたのか。時間の使い方は、学校段階(学年)、地域、社会階層などでどう異なるのか。

[仮説例]

・学習時間は社会階層の高い層で増加し、格差が拡大したのではないか。

・携帯・スマホを使用する時間は、都市部ほど長くなっているのではない。 など

★時間の使い方から、生活と学習上の課題や社会構造上の課題を検討する。

## ●NHK放送文化研究所「国民生活時間調査」(1960年～)

[2000年調査以降の子どもに関する主な知見]

- ①10代の「テレビ視聴」が減少する一方で「インターネット」が増加した
- ②小・中・高校生ともに平日の「授業・学内の活動」の時間が増えた

[課題]

- ①10歳以上の国民全体を対象とし、子どもを想定した内容になっていない
- ②児童・生徒のサンプル数が少なく、属性ごとの分析が十分ではない
- ★「子ども」をとらえるうえで限界がある

## ●子どもの生活や学習をとらえることを目的に行われた調査

[主な例]

- ①ベネッセ教育総合研究所、2007、『第4回学習基本調査』
- ②ベネッセ教育総合研究所、2010、『第2回子ども生活実態基本調査』
- ③深谷昌志・深谷和子・高旗正人、2006、『いま、子どもの放課後はどうなっているのか』
- ④文部科学省、『全国学力・学習状況調査』

[課題]

- ①特定の目的で行われており、子どもの生活全体をとらえる調査項目になっていない
- ②特定の学年に行われているものが多く、小～高の各学年の変化をとらえられない
- ★「生活全体」や「発達変化」をとらえるうえで限界がある

## ●時間の使い方について階層差に注目をした研究

### [主な研究]

- ①-1 苅谷剛彦、2000、「学習時間の変化」、樋田他編『高校生文化と進路形成の変容』
  - ①-2 苅谷剛彦、2000、「学習時間の研究—努力の不平等とメリトクラシー」、日本教育社会学会編『教育社会学研究』66集
  - ② 小針誠、2002、「小・中学生の学業成績と学校外学習時間に関する一考察—社会階層を媒介として」、日本子ども社会学会編『子ども社会研究』8号
- ★学習時間についての階層差の存在や階層差の拡大が明らかに

### [課題]

- ① 学習時間について焦点化されており、それ以外の時間についての検討がない
  - ② 研究から十数年がたち、それ以降は「時間」に着目した研究が少ない
- ★階層研究において学習以外の子どもの生活が注目されていない、近年の研究がない

## ●本調査の「2008年調査」における研究

### [報告書]

- ベネッセ教育総合研究所、『放課後の生活時間調査報告書—小・中・高校生を対象に』  
→ 明石要一、都筑学、佐藤香、西島央、木村治生、邵勤風、橋本尚美、岡部悟志、野澤  
亜伊子がそれぞれの視点で分析を報告
- ★経年比較による子どもたちの変化は明らかにできていない

## ● 調査概要

- 調査テーマ 小学生・中学生・高校生の生活時間の実態と意識に関する調査
- 調査方法 郵送法による自記式質問紙調査
- 調査時期 2013年11月11日(月)～15日(金)
- 調査対象 第1回調査(2008年):全国の小学5年生～高校2年生(合計8,017名)  
第2回調査(2013年):全国の小学5年生～高校3年生(合計8,100名)

### 【第2回調査】

	小学生		中学生			高校生			合計
	小5生	小6生	中1生	中2生	中3生	高1生	高2生	高3生	
配布数(名)	3,675	3,675	3,675	3,675	3,675	3,675	3,675	3,675	29,400
有効回収数(名)	1,245	1,162	1,130	1,049	1,103	857	763	791	8,100
	2,407		3,282			2,411			
有効回収率(%)	32.7%		29.8%			21.9%			27.6%

## ■ 調査内容

### ① 時間の使い方に関するアンケート調査

ふだんの生活時間／習い事／学習塾の利用／部活動(中・高校生のみ)／アルバイト(高校生のみ)／1年間にすること／1日の中で好きな時間／時間の過ごし方・使い方／時間の使い方の点数／家族と決めている時間のルール／将来について／日本社会について／心や身体の疲れ／ふだん使用する電子機器／成績の自己評価／希望する進学段階／基本属性など

### ② 24時間の時間調査(15分刻みの行動履歴) 本日使用するデータ

**[注意]**

- ◆ 書く前に、別の用紙の【書き方の例】を見てください。1マスには、1つだけ番号を書いてください。
- ◆ 同じ時間に2つ以上のことをいっしょにしていたときは、自分がおもにしたと思うものを1つ選んでください。
- ◆ あまり考えこまずに書いてください。

← あてはまる番号を選んで記入する  
\*ながら行動は聞いていない

**【行動の種類】**

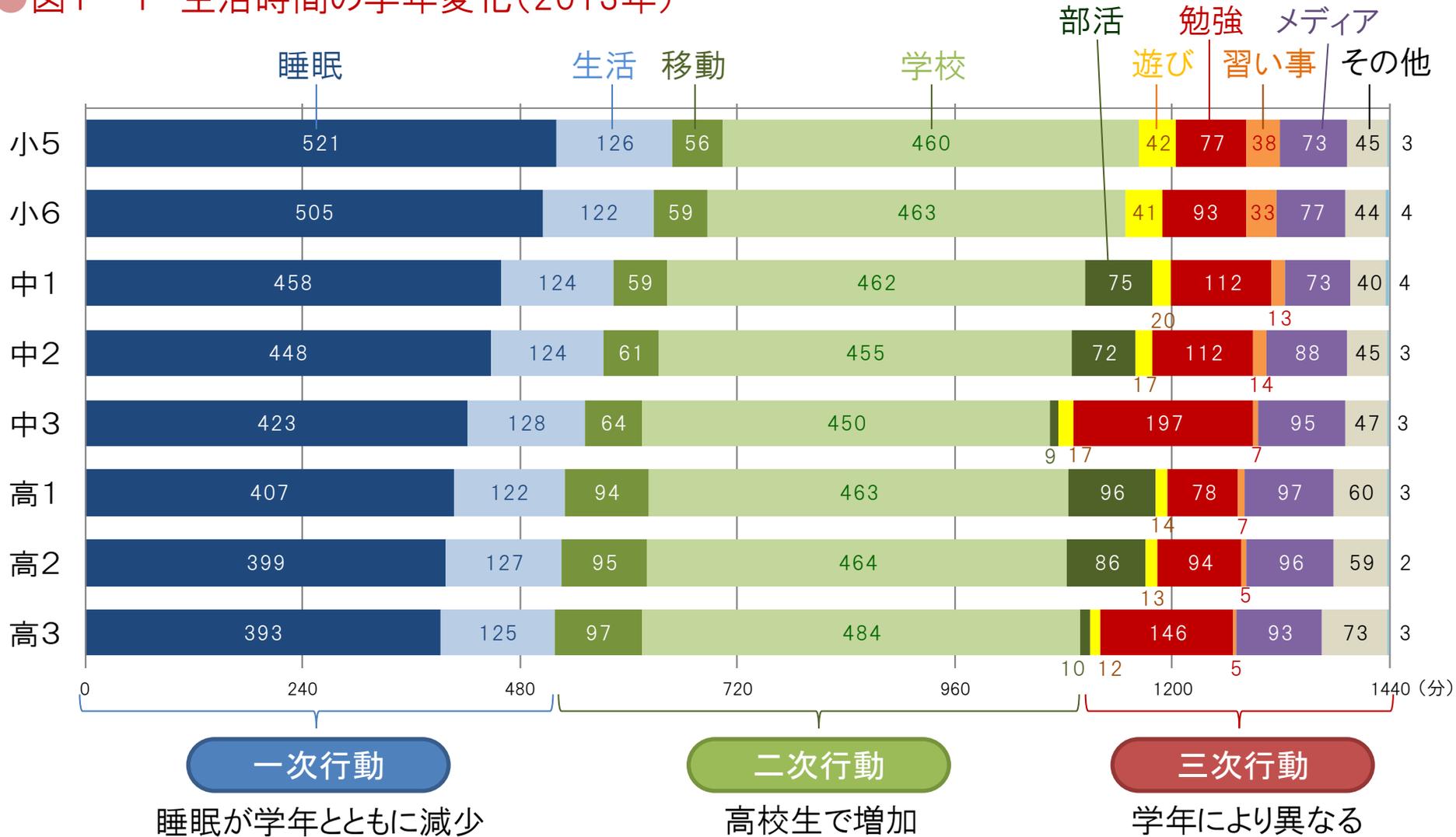
大きな分類	番号	行動	行動の例
生活	1 1	睡眠	寝る、昼寝をする
	1 2	身のまわりのこと	顔を洗う、着がえる、トイレ、お風呂、次の日の準備をするなど
	1 3	食事	朝ごはんや晩ごはんを食べる、おやつを食べる、外食をするなど
移動	2 1	通学	学校に行く(登校)、学校から帰る(下校)
	2 2	移動(通学以外)	遊びや買い物に行くときの移動、習い事や塾に行くときの移動など
学校	3 1	学校	朝の会、授業、休けい時間、帰りの会など
	3 2	放課後に学校ですごす(部活動以外)	放課後に運動場で遊ぶ、図書室で本を読む、生徒会や委員会の活動をする、放課後に学校で勉強するなど
	3 3	部活動	部活動をする(朝練習を含む)
遊び	4 1	屋外での遊び・スポーツ	公園や広場で遊ぶ、スポーツをするなど
	4 2	室内での遊び	自分や友だちの家で遊ぶ、カードゲームで遊ぶなど
	4 3	ゲーム機で遊ぶ	テレビゲームや携帯ゲーム機(DSやPSPなど)で遊ぶ
勉強	5 1	学校の宿題	学校の宿題をする
	5 2	勉強(学校の宿題以外)	自分で勉強をする、塾の宿題をするなど
	5 3	学習塾	塾に行って勉強する
習い事	6 1	習い事・スポーツクラブ	楽器・習字・そろばんなどの習い事に行く、スポーツクラブに行くなど
	6 2	習い事の練習	楽器の練習、そろばんの宿題など
メディア	7 1	テレビ・DVD	テレビやDVDなどを見る
	7 2	本・新聞	本を読む(マンガ・雑誌以外)、新聞を読む
	7 3	マンガ・雑誌	マンガを読む、雑誌を読む
	7 4	音楽	音楽をきく、楽器をひくなど
	7 5	携帯電話・スマートフォン・パソコンなどを使う	携帯電話・スマートフォン・パソコン・タブレット型端末(iPadなど)を使う(電話、メール、チャット、インターネット、ゲームなど)
対人	8 1	家族と話す・すごす	お父さんやお母さんと話す、いっしょにすごすなど
	8 2	友だちと話す・すごす	友だちと話す、いっしょにすごすなど
その他	9 1	家の手伝い	晩ごはんのしたくを手伝う、おつかいに行くなど
	9 2	買い物	コンビニやショッピングセンターに行く、お店で買い物をするなど
	9 3	からだを休める	休けいする、ぼーっとする、ごろごろする、うたた寝をするなど
	9 4	ペットとすごす	ペットと遊ぶ、ペットの散歩に行くなど
	9 5	その他	その他(どれにもあてはまらない行動)

# 分析結果

— 学年変化と経年比較を中心に —

# 学年による生活の変化

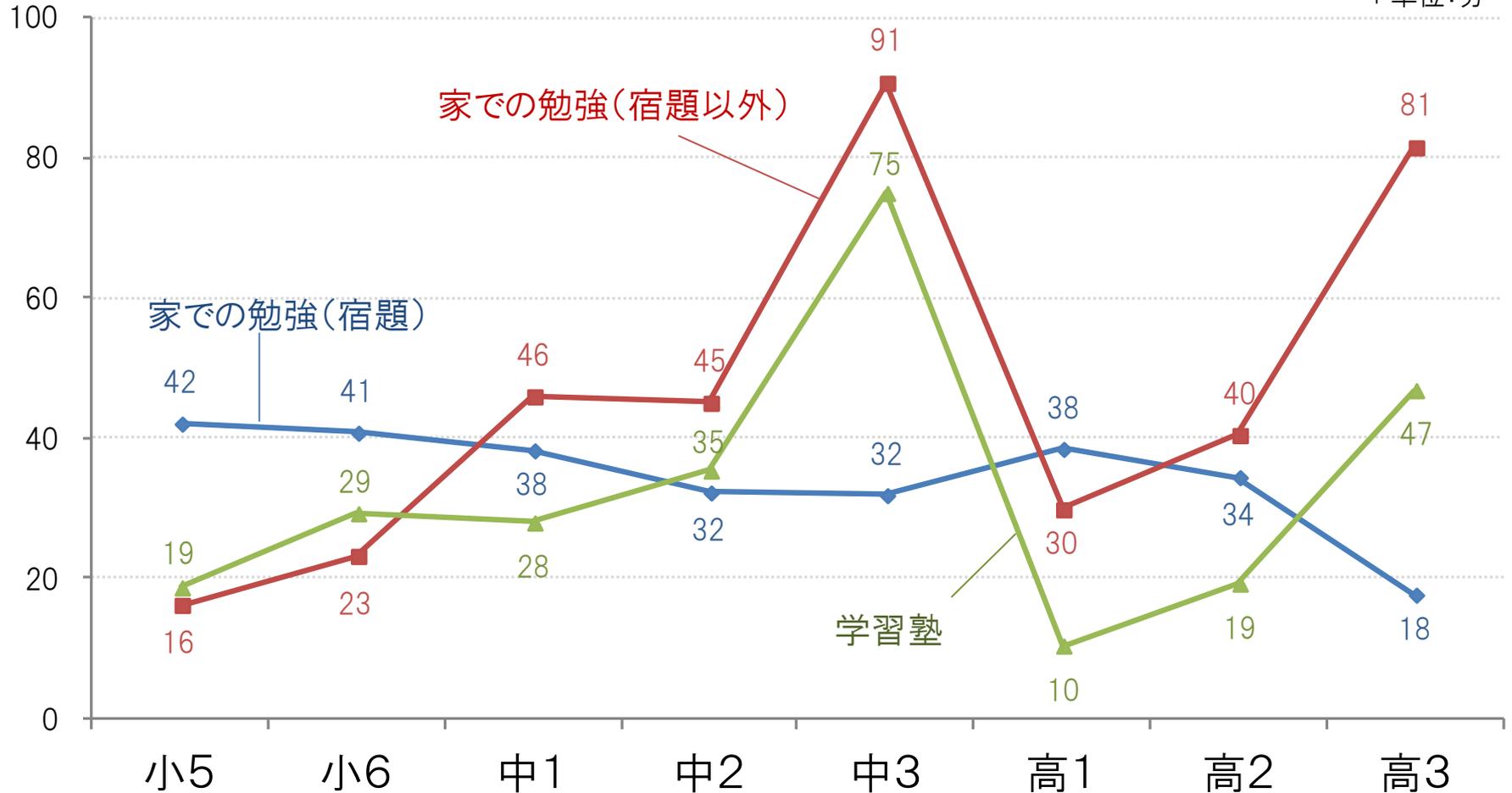
● 図1-1 生活時間の学年変化(2013年)



\*「生活」=「12身の回りのこと」+「13食事」、「移動」=「21通学」+「22移動」、「学校」=「31学校」+「32放課後に学校ですぐす」、「遊び」=「41屋外での遊び・スポーツ」+「42室内での遊び」+「43テレビゲーム」、「習い事」=「61習い事・スポーツ」+「習い事の練習」、「メディア」=「71テレビ・DVD」+「72本・新聞」+「73マンガ・雑誌」+「74音楽」+「75携帯電話・スマホ・パソコン」、「その他」=「81家族と話す・すぐす」+「82友だちと話す・すぐす」+「91家の手伝い」+「92買い物」+「93からだを休める」+「94ペットとすぐす」+「95アルバイト」+「96その他」

● 図1-2 学習時間の学年変化(2013年)

\* 全体平均  
\* 単位:分

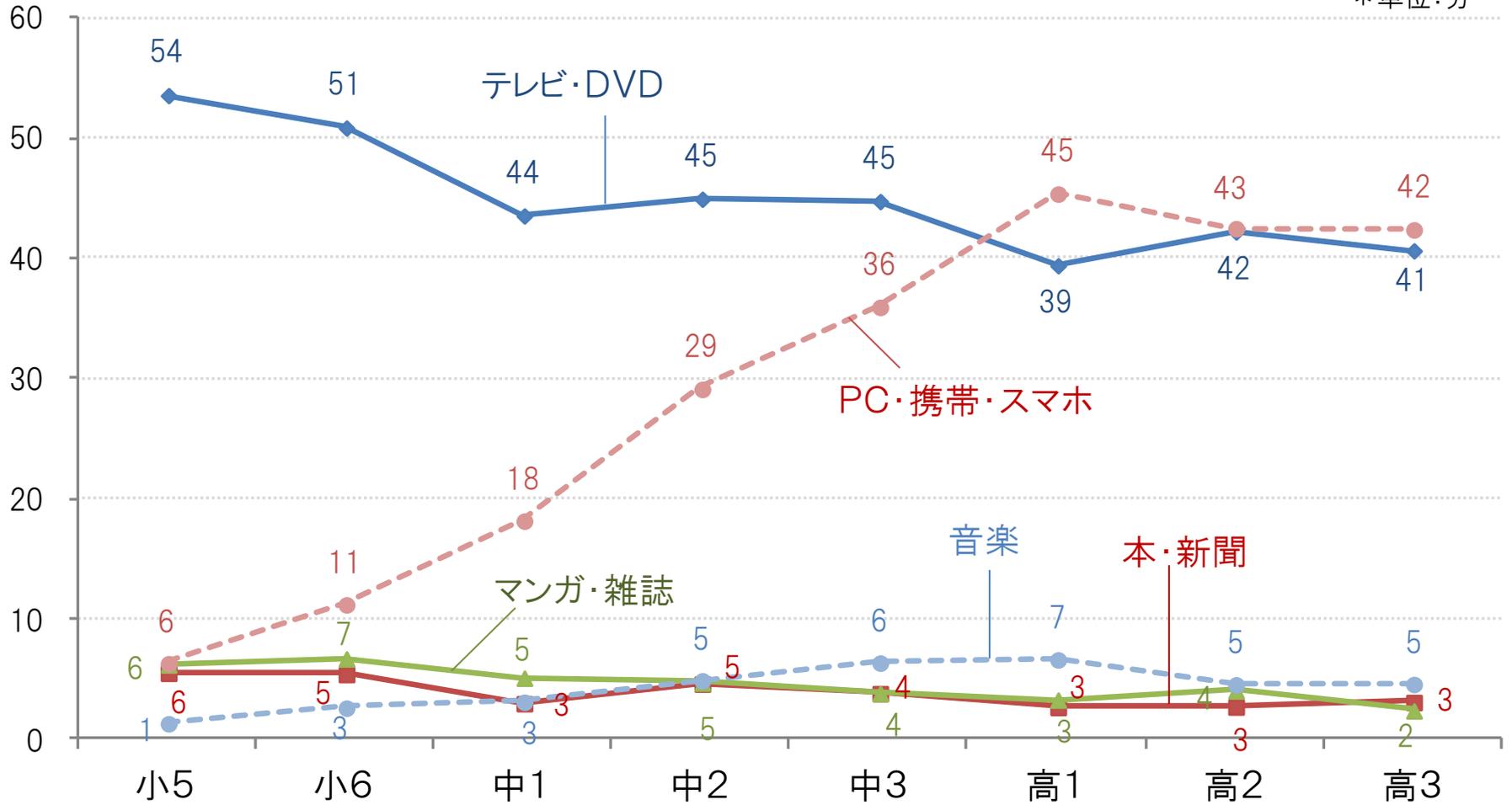


- 「51家での勉強(宿題)」は小5～高2で30～40分程度。学年による変化は小さい。
- 「52家での勉強(宿題以外)」「53学習塾」は、中3・高3の受験学年で時間が長い。

# メディア時間(学年変化)

● 図1-3 メディア時間の学年変化(2013年)

\* 全体平均  
\* 単位:分



● 「71テレビ・DVD」は小5～高1まで54分→39分にゆるやかに減少。

● 「75PC・携帯・スマホ」は、小5～高1まで6分→45分に大幅に増加。

● 図1-4 生活時間の経年変化

		生活			移動		学校			遊び			学習			習い事		メディア				その他									
		1 1 (睡眠)	1 2 (身の回りのこと)	1 3 (食事)	2 1 (通学)	2 2 (移動)	3 1 (学校)	3 2 (放課後)	3 3 (部活動)	4 1 (屋外での遊び・スポーツ)	4 2 (室内での遊び)	4 3 (テレビゲーム)	5 1 (家での勉強(宿題))	5 2 (家での勉強(宿題以外))	5 3 (学習塾)	6 1 (習い事・スポーツクラブ)	6 2 (習い事の練習)	7 1 (テレビ・DVD)	7 2 (本・新聞)	7 3 (マンガ・雑誌)	7 4 (音楽)	7 5 (PC・携帯電話・スマホ)	8 1 (家族と話す・すごす)	8 2 (友だちと話す・すごす)	9 1 (家の手伝い)	9 2 (買い物)	9 3 (からだを休める)	9 4 (ベットと過ごす)	9 5 (アルバイト)	9 6 (その他)	1 0 0 (無回答・不明)
小学生	2008年	516	60	61	40	16	441	11	0	14	13	17	36	21	24	30	4	64	5	7	2	4	16	6	4	2	14	2	0	6	4
	2013年	513	63	62	41	17	451	10	0	11	10	20	41	19	24	32	4	52	5	6	2	9	13	4	4	2	14	2	0	5	3
	差	-3	3	1	1	1	10	-1	0	-3	-3	3	6	-1	-1	2	-1	-12	0	-1	0	5	-3	-2	0	0	1	0	0	-1	-1
中学生	2008年	446	63	58	47	11	437	11	54	5	5	14	33	53	40	9	2	59	4	8	6	18	11	6	4	2	20	2	0	6	5
	2013年	443	66	59	49	13	447	9	52	3	4	11	34	61	46	9	2	44	4	5	5	28	9	3	4	2	20	2	0	4	3
	差	-3	4	1	2	1	11	-2	-2	-1	-2	-3	2	8	6	0	0	-15	-1	-3	-1	10	-1	-3	0	-1	0	0	0	-2	-2
高校生	2008年	403	70	54	85	11	442	17	90	2	4	11	33	29	11	3	1	57	4	7	7	31	8	10	4	4	19	2	12	6	4
	2013年	403	69	56	82	13	448	15	91	2	3	8	36	35	15	4	2	41	3	4	6	44	9	9	3	2	19	2	11	5	2
	差	0	-1	2	-3	2	6	-2	2	0	-1	-4	3	6	4	1	0	-16	-2	-3	-1	13	0	-1	0	-2	0	0	0	-1	-2

白抜 10分以上の増減

白抜 5分以上の増減

白抜 3分以上の増減

\* 全体平均  
\* 単位:分

## ●学校にいる時間の増加

→「31学校」が小で10分、中で11分、高で6分増加

★小中学生は標準授業時数が1コマ(小45分、中50分)増えたことが影響か

## ●学習時間の増加

→「51家での勉強(宿題)」が小で6分増加

→「52家での勉強(宿題以外)」が中で8分、高で6分増加

→「53学習塾」が中で6分、高で4分増加

★全体に学習時間が増えていることは、全国学力・学習状況調査の結果とも一致

## ●従来のメディアの利用時間の減少

→「71テレビ・DVD」が小で12分、中で15分、高で16分減少

→「73マンガ・雑誌」が中で3分、高で3分減少

## ●PC・携帯・スマホの利用時間の増加

→「75PC・携帯・スマホ」が小で5分、中で10分、高で13分増加

★従来のメディアから新しいメディアへの移行が進む。

高校生では、「テレビ・DVD」と「PC・携帯・スマホ」が逆転。

$$\text{全体平均時間} = \frac{\text{行為者率}}{\text{行為者母数}} \times \text{行為者平均時間}$$

- 「全体平均時間」が変化したとしても、「行為者率」が変化したのか、「行為者平均時間」が変化したのかによって意味が異なる
- たとえば、「31学校」の時間は…

● 図1-5 「学校」時間の経年変化

	2008年			2013年			差		
	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)
小学生	440.8	99.3	444.0	451.1	99.5	453.4	10.3	0.2	9.4
中学生	436.9	98.6	443.2	447.4	98.8	452.7	10.5	0.3	9.5
高校生	442.1	98.7	447.8	447.9	98.5	454.9	5.8	-0.2	7.1

全体平均時間の伸びは、行為者(=ほぼ全員の子ども)に同様に起こったこと。

● 図1-6 学習時間の経年変化

● 家での勉強  
(宿題)

	2008年			2013年			差		
	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)
小学生	35.7	79.7	44.8	41.4	85.2	48.6	5.7	5.5	3.9
中学生	32.5	52.5	61.9	34.1	57.3	59.5	1.6	4.8	-2.4
高校生	32.8	46.8	70.1	36.5	52.6	69.4	3.7	5.8	-0.7

★行為者率が増加。宿題の量が増加したというよりは、宿題がより出されるようになった。

● 家での勉強  
(宿題以外)

	2008年			2013年			差		
	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)
小学生	20.7	39.0	53.1	19.5	36.4	53.6	-1.2	-2.6	0.5
中学生	52.7	54.8	96.1	60.7	57.7	105.1	8.0	2.9	9.0
高校生	28.8	33.5	86.1	34.8	37.6	92.4	5.9	4.1	6.4

★中高生で行為者率が微増するとともに、行為者平均時間も増加。より勉強するように。

● 学習塾

	2008年			2013年			差		
	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)
小学生	24.3	18.0	135.2	23.7	18.3	129.6	-0.6	0.3	-5.6
中学生	40.5	27.8	145.6	46.1	30.3	151.8	5.6	2.5	6.2
高校生	40.5	27.8	145.6	46.1	30.3	151.8	5.6	2.5	6.2

★小学生で行為者平均時間が減少するも、中高生では増加。

## ● 図1-7 メディア時間の経年変化

	2008年			2013年			差		
	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)
小学生	64.2	76.6	83.8	52.3	69.5	75.3	-11.9	-7.1	-8.5
中学生	59.4	68.3	86.9	44.4	60.4	73.5	-14.9	-7.9	-13.3
高校生	56.8	62.5	90.9	40.8	53.0	76.9	-16.0	-9.5	-14.1

★小～高まで、行為者率、行為者平均ともに減少。テレビ離れが全体に進んでいる。

	2008年			2013年			差		
	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)
小学生	5.2	13.1	39.7	5.5	13.4	40.9	0.3	0.3	1.1
中学生	4.5	11.3	39.6	3.8	9.0	42.0	-0.7	-2.3	2.4
高校生	4.4	9.4	46.9	2.7	5.9	45.6	-1.7	-3.5	-1.3

★中高生で行為者率が微減。

	2008年			2013年			差		
	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)
小学生	7.2	18.2	39.3	6.5	16.0	40.3	-0.7	-2.2	1.0
中学生	7.7	18.1	42.4	4.5	10.6	42.9	-3.1	-7.5	0.6
高校生	6.9	15.0	46.1	3.6	8.1	44.5	-3.3	-6.9	-1.6

★中高生で行為者率は減少するものの、行為者平均時間はほぼ変わらず。

● テレビ・DVD

● 本・新聞

● マンガ・雑誌

● 図1-7 メディア時間の経年変化【つづき】

	2008年			2013年			差		
	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)
小学生	1.7	5.1	33.5	1.9	5.2	37.0	0.2	0.1	3.5
中学生	5.7	13.9	40.6	4.8	12.1	39.4	-0.9	-1.9	-1.1
高校生	7.2	15.9	45.2	5.6	13.3	42.5	-1.5	-2.6	-2.7

★大きな変化は見られない。

	2008年			2013年			差		
	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)	全体平均 (分)	行為率 (%)	行為者平均 (分)
小学生	4.1	9.3	44.4	8.7	15.7	55.2	4.6	6.4	10.8
中学生	18.0	29.1	61.7	27.7	39.2	70.6	9.7	10.1	8.9
高校生	30.6	46.5	65.9	44.0	61.2	72.0	13.4	14.7	6.1

★小～高まで、行為者率、行為者平均ともに増加。携帯情報端末の普及が関連。

★小学生は行為者率が低いので全体平均の伸びは小さいが、行為者平均は大幅増。  
＝利用している小学生がヘビーに使うようになってきている可能性。

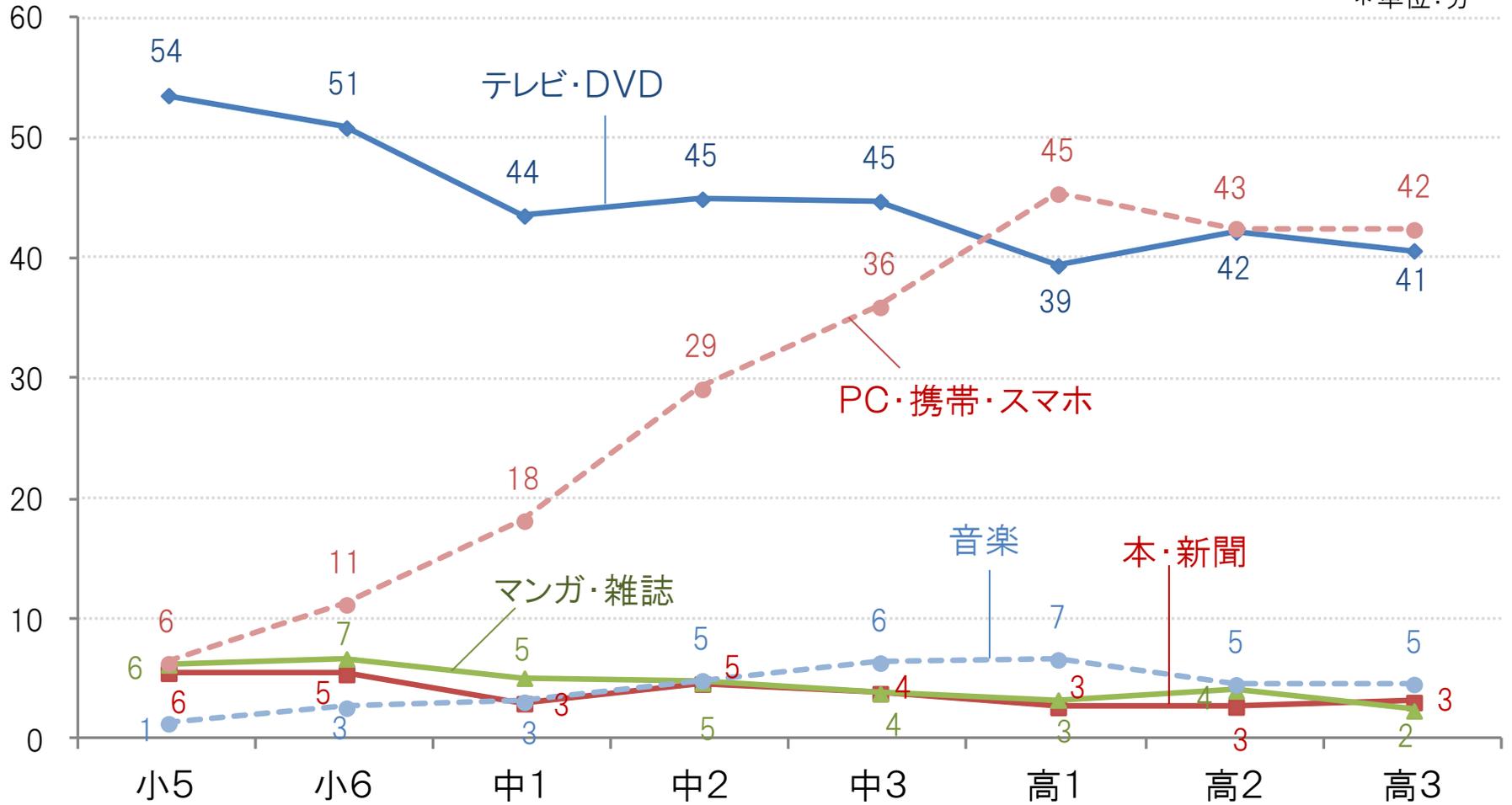
★中学生も全体平均は28分であるが、行為者平均は71分で高校生と変わらない。

● 音楽

● PC・携帯・  
スマホ

● 図1-3 メディア時間の学年変化(2013年)【再掲】

\* 全体平均  
\* 単位:分



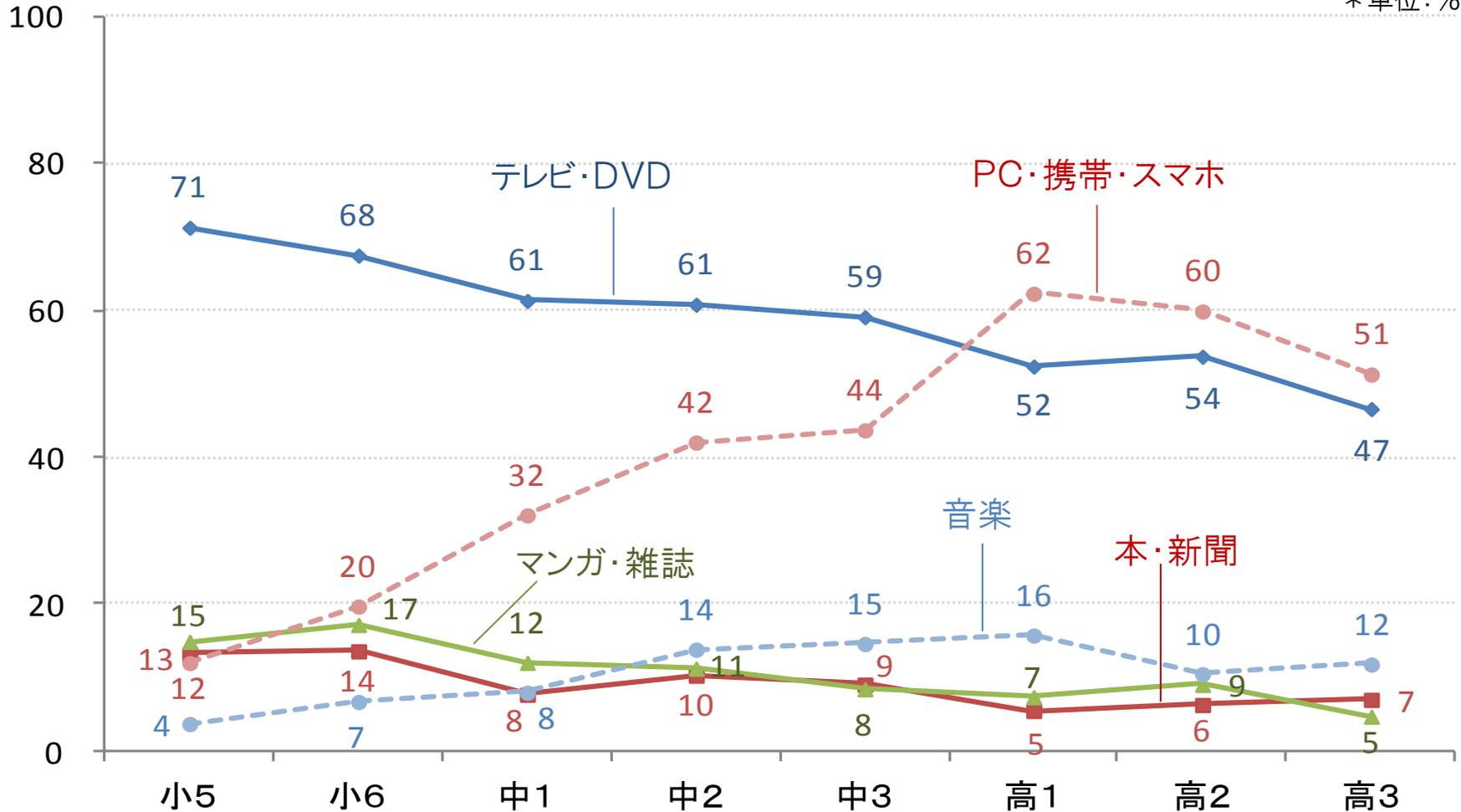
● 「71テレビ・DVD」は小5～高1まで54分→39分にゆるやかに減少。

● 「75PC・携帯・スマホ」は、小5～高1まで6分→45分に大幅に増加。

# メディア行為者率(学年変化)

● 図1-8 メディア行為者率の学年変化(2013年)

\* 行為者率  
\* 単位: %



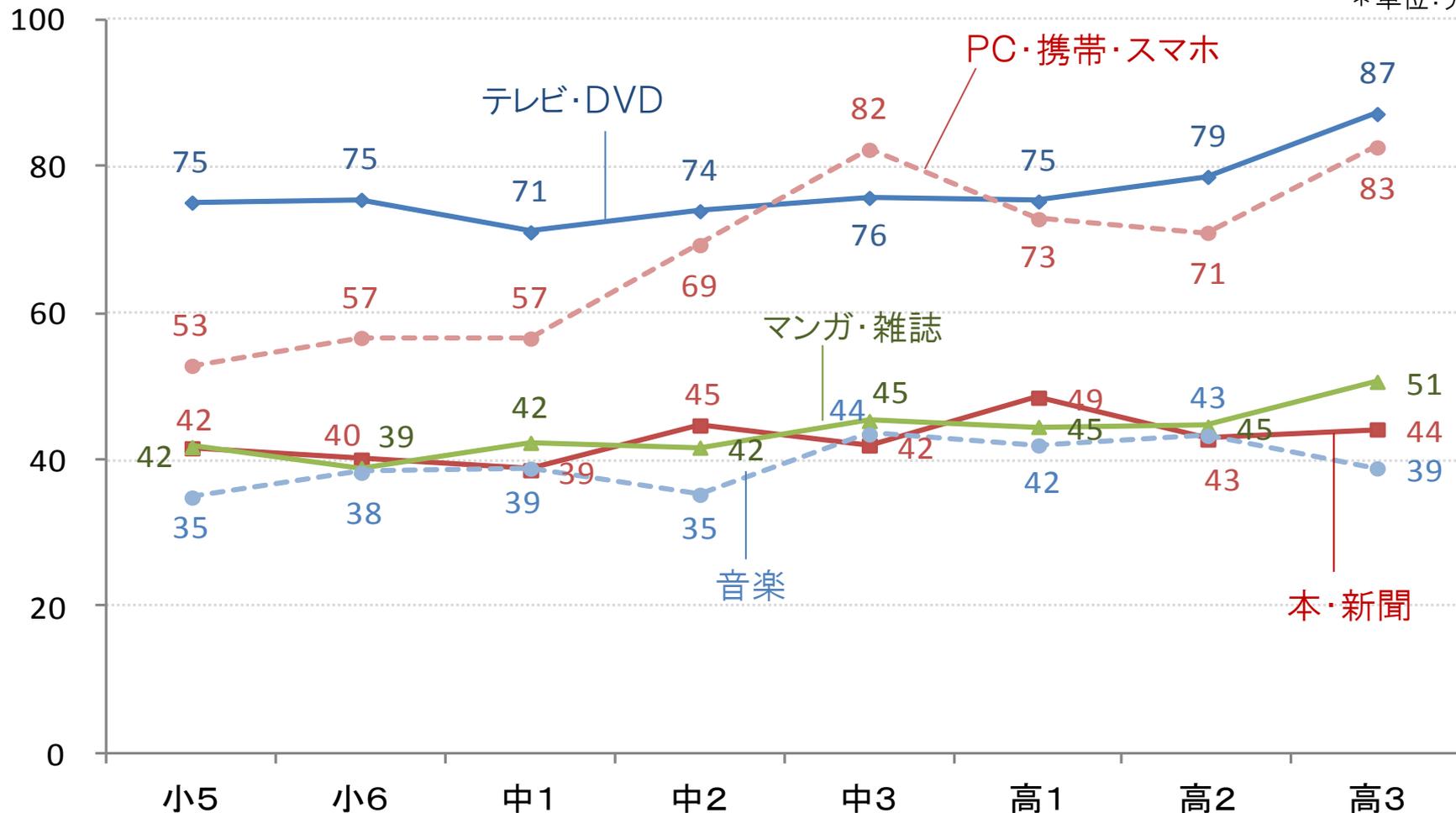
● 「71テレビ・DVD」は小5～高3まで71%→47%にゆるやかに減少。

● 「75PC・携帯・スマホ」は、小学生は2割弱、中学生は3～4割、高校生は5～6割。

# メディア行為者平均時間(学年変化)

● 図1-9 メディア行為者平均時間の学年変化(2013年)

\* 行為者平均  
\* 単位:分



- 「75PC・携帯・スマホ」の行為者平均時間は、小学生でも60分時間弱。
- 「72本・新聞」「73マンガ・雑誌」「74音楽」は、行為者は40分前後で学年変化は小さい。

## 1. 生活時間の構成は「睡眠」「学校」「それ以外」の時間がおおよそ1/3ずつ

①「11睡眠」は小5の521分(8h41m)→高3の393分(6h33m)に減少

②「31学校」は460分(7h40m)～480分(8h)程度で変化は小さい

③24時間から「睡眠」と「学校」を除く「それ以外」がおおよそ8時間程度

- さらにそこから生活に必須な「生活」(約120分)や「移動」(約60～90分)を引くと、平日に子どもたちが自由に使える時間(可処分時間)は4時間30分～5時間

## 2. 学年による「時間の使い方」の変化は大きく3つのタイプの活動に分けられる

①学年による変化が小さい活動

- 「12身の回りのこと」「13食事」「31学校」「51家での勉強(宿題)」「72本・新聞」「73マンガ・雑誌」

②学年が上がるにつれて減少／増加する活動

- 減少……「11睡眠」「41野外での遊び・スポーツ」「42室内での遊び」「61習い事・スポーツクラブ」「71テレビ・DVD」「81家族と過ごす」

- 増加……「21通学」「75PC・携帯・スマホ」「82友だちと過ごす」

③学年ごとの特徴がみられる活動

- 中3・高3で増加……「52家での勉強(宿題以外)」「53学習塾」
- 中1・中2・高1・高2で増加……「33部活動」
- 高校生で増加……「95アルバイト」

## 3. 経年変化では「学校」「学習」の時間が増加。新しいメディアへの移行も進む

- ①「31学校」は学年を問わず10分前後増加
- ②「学習」関連の時間がおおむね増加傾向
  - どのような時間が増えているかは、学年による相違はある
- ③従来メディアの時間が減少し、新しいメディアの時間が増加
  - 減少……「71テレビ・DVD」「73マンガ・雑誌」
  - 増加……「75PC・携帯・スマホ」

## 4. 「メディア」の時間の増減のパターンは、活動により異なる

- ①「71テレビ・DVD」は行為者率・行為者平均も減少し、テレビ離れは全体に発生
- ②「72本・新聞」「73マンガ・雑誌」は行為者率のみ減少し、一部が離脱
  - 行為者の時間変化は少ない
- ③「75PC・携帯・スマホ」は行為者率・行為者平均ともに増加し、全体に普及
  - 行為者率の増加は小<中<高、行為者時間の増加は小>中>高。高校は携帯・スマホの普及率が高まり、「ふつうの子」も所持するように。一方で、学年が低いほど「ヘビーユーザー」が所持している可能性。

## 1. 時間をコントロールする力の必要

子どもたちの可処分時間は、平日4時間30分～5時間程度と限られている。この時間内に行われる活動は逆相関(一方が増えれば他方は減る)の関係にあるので、**どのように時間を有意義に使うか**、時間をコントロールする力が求められる。

## 2. 学年による生活の変化に配慮

小6→中1(「部活」の発生による各種活動の後ろ倒しや「睡眠」の減少)、中3・高3(受験のための「勉強」の増加による他の活動の抑制)など、時間の使い方が大きく変化する学年がある。**生活リズムをどう整えるか**、留意が必要であろう。学年が上がるにつれて、「睡眠」時間の減少も顕著。

## 3. 学習の時間が増えていることの功と罪

学力低下不安の反動で、大人が子どもにより学習させるようになっている。**子どもの負担や他の時間への影響**も考える必要がある。アンケート調査の結果でも人とのかわりや体験活動の減少といった変化がみられる。

## 4. メディアは行為者平均時間の長さ(利用者の長時間化)に留意

「PC・携帯・スマホ」の時間の増加の一方で、「テレビ・DVD」の時間が減少し、メディアの時間の総量は変化していない。子どもたちは冷静にメディアの時間をコントロールしているともいえる。ただし、「PC・携帯・スマホ」は行為者平均で見ると小中学生でも1時間前後使っている。